

市場環境と成長戦略

2011年11月17日
富士電機株式会社
マーケティング本部



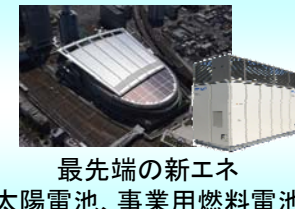
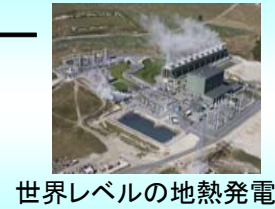
富士電機の「エネルギー・環境」の強み

□ 全売上高の70%を占めるエネルギー・環境で特徴ある技術・商材を提供している。

創エネ

環境にやさしいクリーンエネルギー

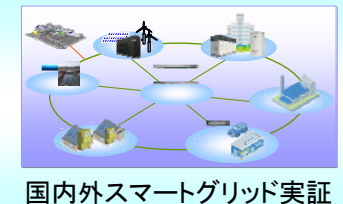
高効率火力・地熱発電
水力発電、燃料電池、太陽電池
放射線環境計測、原子力機器・設備



エネルギー マネジメント

創エネ・省エネを最適化

エネルギー最適化制御
送配電機器、電力需給制御システム
スマートメタリング、エネルギーIT



省エネ

エネルギーの効率利用

高効率産業電源、変電設備
施設電機、ドライブシステム
オートメーション (PA, FEMS, BEMS)



パワエレ 応用機器

先進的パワエレ応用機器

低圧・高圧インバータ、モータ、サーボ
無停電電源 (UPS)
電力変換装置、車両用電気機器



パワー半導体 受配電制御機器

グローバルのパワー半導体

産業・電装用IGBT

制御器具

受配電制御器具



メガトレンドと機会

メガトレンド

地球環境問題への対応

- 人口増加と都市化の進展
- 資源不足
- 地球温暖化
- 高齢化問題（先進国）

- エネルギー、水、食糧問題
- 省資源、再利用化
- 資源・クリーン技術の開発
- 社会ニーズのシフト（医療、健康、介護）

市場構造の変化

- 成熟した日本市場
規模型事業の縮退
- 新興国の成長と重要性拡大
- FTAの拡大

- コモディティ化の進展
- 低コスト市場の拡大
- グローバル競争の激化

急激な経営環境の変化

- 経済変化スピードの加速
欧米経済の経済危機を契機
- グローバル経済化
- 急激な円高
- 不測の自然災害影響

- 経営施策の追従・修正
- 世界的な危機連鎖のヘッジ
- 輸出競争力の低下
- 事業継続性

機会・施策

エネルギー・環境市場の拡大

- 資源の創出
- エネルギー効率利用市場の伸長
- 環境規制対応需要の拡大
- 新市場：スマートコミュニティ

グローバル市場への進出

- 海外需要の拡大
新興国：産業の拡大
インフラ投資の拡大
- 生産の最適地シフト

経営の変革

- 経営手法の変革
- リスクマネジメントの強化

□有限な資源問題は社会共通の課題であり、この下で、持続可能な社会を実現する技術が求められており、さまざまな事業機会が生まれる

2010

2020

外部環境

- 人口の増加 70億人 → 78億人
- 新興国の台頭 (GDPシェアの拡大:各種機関の予測値より) 31% → 47%
- 資源の逼迫 エネルギー資源、食糧資源、水資源、鉱物資源の逼迫

○スマートコミュニティ投資 要素技術の実証・適用 → 協調・統合 → 資源循環型社会への移行

産業技術・事業機会

創エネ

- 発電のクリーン化 火力発電の高効率化・LNG需要の増加、地熱発電の増加
- エネルギー供給構造の変革 分散型・再生可能エネルギーの継続的拡大

エネルギー・マネジメント

- グリッドのスマート化 スマートグリッド実証 → スマートグリッドの普及
- EMSの高度化 スマートメータの普及 → グリッド連携・エネルギー利用最適化
- エネルギー貯蔵の実用化 2次電池の性能向上 → EV、PHEVの普及 → V2G、V2H

省エネ

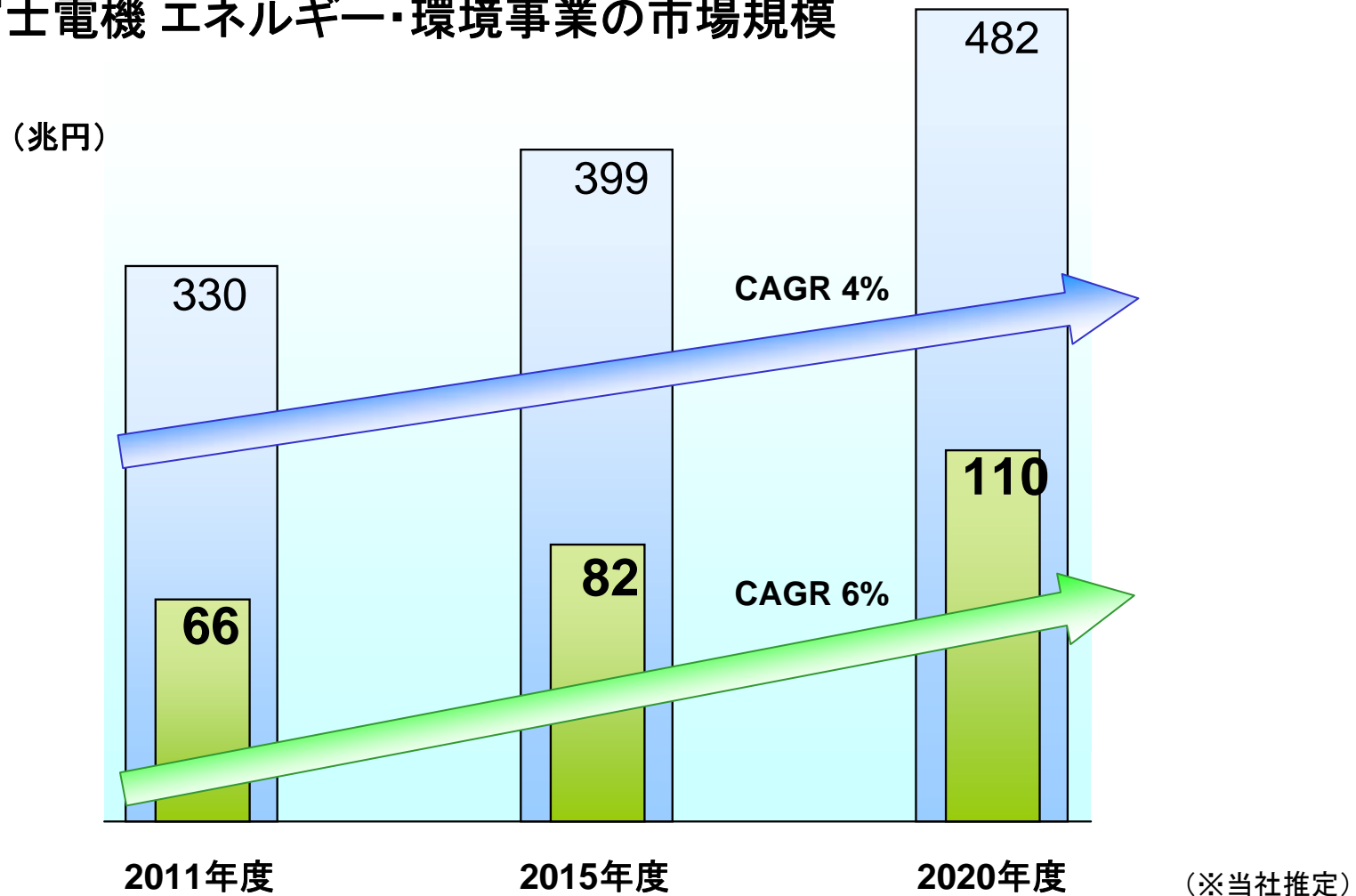
- 省エネ技術革新 産業プロセス省エネ化の継続 → 電力+熱エネルギー最適化
- 電力変換損失低減 パワーデバイス・パワーレ機器の損失低減 → 高効率化(SiCデバイス)
- リサイクルの拡大 マテリアルリサイクルの進展(都市鉱山)、水の再利用

○環境規制の強化 エネルギー効率規制・環境保護規制の強化

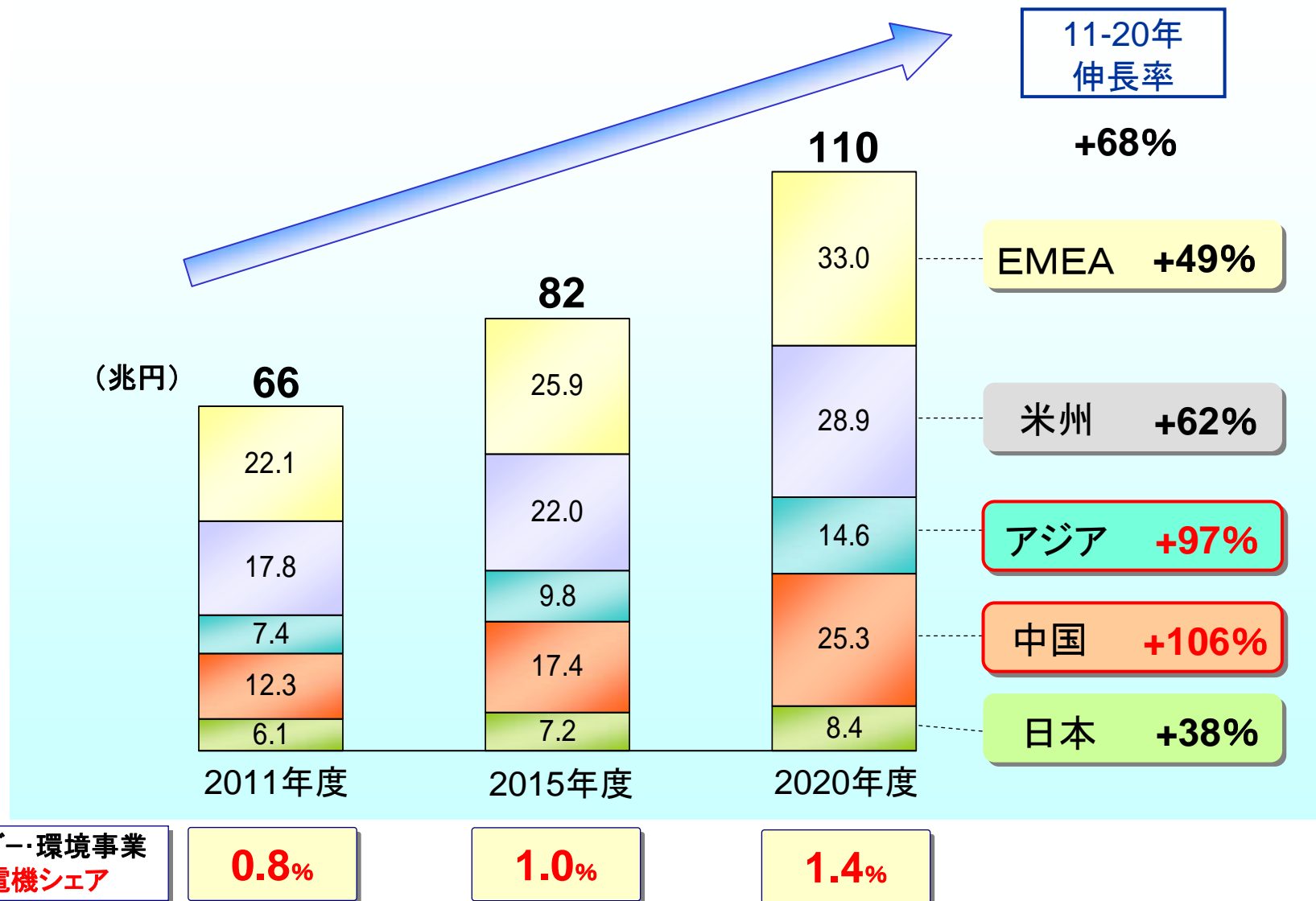
エネルギー・環境市場規模

■ 全エネルギー・環境市場規模

■ 富士電機 エネルギー・環境事業の市場規模



富士電機 エネルギー・環境事業の市場規模(地域別)

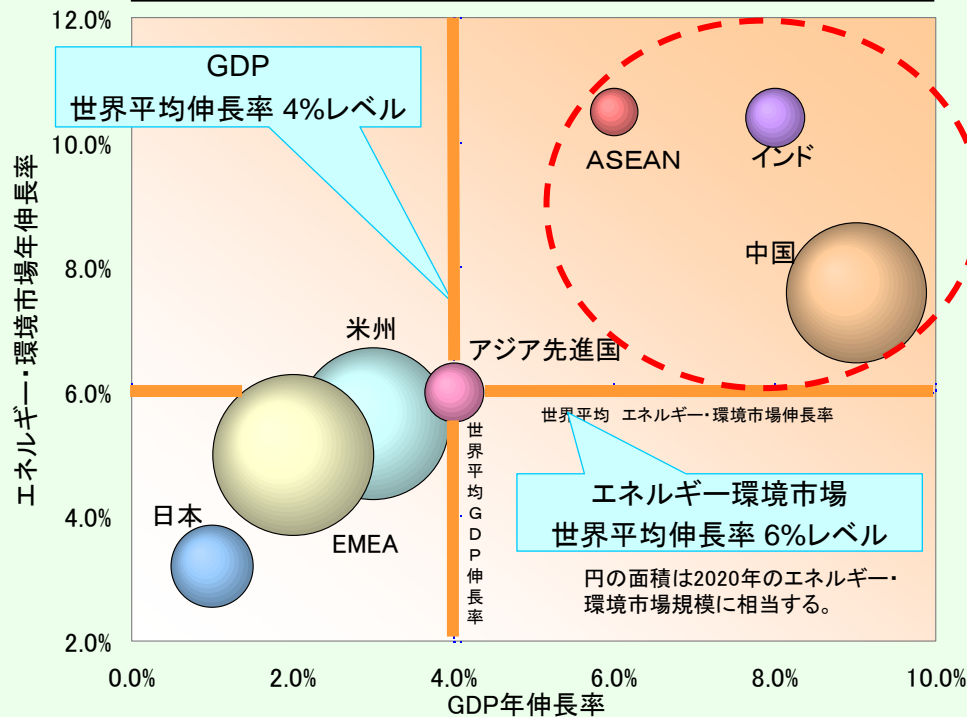


外部環境とエネルギー・環境市場

□足元の経済動向に不安材料もあるものの、エネルギー・環境市場は、アジア・中国を中心に、今後もCAGR6%で成長していくものと見ている

■ エネルギー・環境市場

2011年:66兆円 ⇒ 2020年:110兆円
CAGR6%成長



出典: GDP伸長率(2011.9 IMF発表データにより当社算出)
エネルギー・環境市場(規模・伸長率は各種発表データより当社算出)

■ 経済動向

■日本
復興需要などに支えられ回復し、その後は緩やかな成長にとどまる

■アジア
人口増と中間層の消費増を背景に、インフラ整備投資を軸とした高成長が継続

■中国
需要は鈍化傾向にあるが、経済成長は急減速なく基本的には拡大基調

■欧米
引き続き最大市場として緩やかな成長を継続する見通し

■ リスク

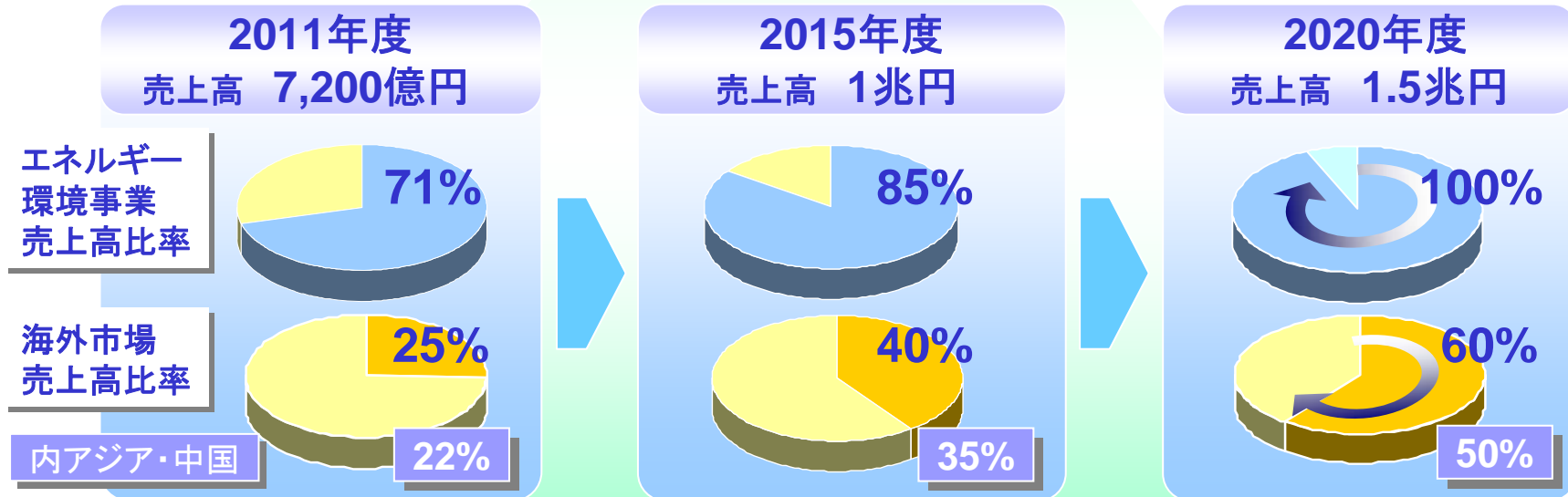
- 欧州ソブリン問題
- 中国の減速懸念
- 為替変動
- 自然災害

富士電機 10年ビジョン

「エネルギー・環境」の最先端企業を目指して

資源循環型社会の実現に貢献する
エネルギー・環境企業へ

「日本の富士電機」から「世界の富士電機」へ
グローバル企業への変貌



多様な人材・組織による総合力の発揮, 海外人材の活用
チームによる総合力の発揮

※本資料における売上高・営業利益等の数値は目標値です。



エネルギー・環境コア技術

スマート制御

全体最適志向エンジニアリング
(最適化, EMS, メータリング, 省エネ)

次世代パワーエレクトロニクス

(SiC, 大容量, 直流化対応)

スマートコミュニティを支える
主な技術・商材

スマートグリッド

エネルギーマネジメント

スマートファクトリ・店舗

スマートメータ・センサ

高効率化火力・地熱発電

新エネ・省エネ電機設備

高効率産業ドライブ

EV車載機器・充電インフラ

高信頼度電源・電力変換機器

パワーデバイス(SiC, 大容量)

3カ年ローリングプランの位置づけ



注 記

1. 本資料は法律に基づく監査手続の対象外であり、本説明会の時点において、法律に基づく財務諸表の監査手続は終了していません。
2. 本資料および本説明会に含まれる予想値および将来の見通しに関する記述・言明は、弊社が現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいております。その判断や仮定に内在する不確実性および事業運営や内外の状況変化により、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なる可能性があり、弊社は、将来予測に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。
3. 本資料は、情報の提供を目的とするものであり、弊社の株式の売買を勧誘するものではありません。
4. 目的を問わず、本資料を無断で引用または複製することを禁じます。